

ぐんまエコ宣言!2018

【主催】 上毛新聞社長 内山 充

環境を守る大切さを知ってもらうため、県内の小学生を対象に「ぐんまエコ宣言」を初開催した。温暖化や自然破壊など、環境を巡る問題は年々深刻になっていく。群馬でも夏場の気温上昇や豪雪などの異常気象が起きている。今回のような発表の場が増えることで、子供たちによる社会に役立つ環境活動の後押しになると期待している。



【特別協賛】 エコ計画 井上綱隆社長

創業49年を迎える当社はいま、さいたま市に本社を構え、埼玉・群馬を中心に収集運搬、中間処理、最終処分を一貫して行う総合リサイクル企業。「ぐんまエコ宣言」を通して、企業だけでなく未来を担う子供たちが環境問題に関心を持ち、自ら考え発信していくことが、当社も引き続き環境貢献を第一に事業を行っていく。



閉会式でステージに勢ぞろいする受賞者ら

小中学生が環境をテーマにプレゼンテーションする「ぐんまエコ宣言!2018」(上毛新聞社主催、エコ計画特別協賛)の本大会が10日、前橋市の県公社総合ビルで開かれた。次代を担う子供たちに、地球の未来について考えてもらおうと初めて開催。小学生162名、中学生102名の応募があり、書類審査を通過した小学生12組20人と中学生8人が本大会に臨み、身近な自然や環境問題について堂々と発表した。

小学生の部・エコ計画賞 吉岡陽向君(高崎城山小4年)
木村匠君(同5年) 岸映太君(同5年)

生き物で川の水質調査

身近な地域の環境変化を調べるため、学校近くの金井沢川の水質を毎年調べている。上流と下流でそれぞれ指標生物を探した。結果、上流ではきれいな水に住むサワガニが姿を消すなど水質が年々悪化していた。学校で行っている地域の環境保護活動として、水生生物を増やすためにクヌギを植えたりしていることを紹介。「豊かな自然を未来に伝えるため、環境を守る活動を続けていきたい」と締めくくった。3人は発表までの2週間、休みの時間や放課後に練習。本番は大きな声で堂々と発表した。受賞に「練習の成果が出た」と喜ぶ。岸君は「先生のアドバイスのおかげ」と喜んだ。



中学生の部・エコ計画賞 岩崎詩音さん(伊勢崎宮郷中1年)

料理の工夫でCO2削減

家庭でできる「酸化炭素(CO2)削減方法」として、環境に配慮した「エコック」について研究した。自宅の1カ月の光熱費からCO2の排出量を計算し、電力による排出が最も多いこの小さな取り組みが、地球と鍋の保温や同時調理を取ると提案した。



小学生の部・大賞 神村麗羽さん(館林美園小3年)

外来種からサクラを守る

サクラなどの樹木の内側を食い荒らして枯死させる特定外来生物の昆虫「クヒアカツヤカミキリ」の被害状況と対策などを調べた。朝会でもこのままでは日本のサクラが見られなくなってしまう」と聞き、「サクラが未来に残るようになりたい」との思いから昨年の夏休み、調査を進めた。本来の生息域は中国や朝鮮半島、ベトナム。日本に天敵がなく、人が駆除する必要はない。2012年に愛知で発見され、本県では15年に館林で被害が確認された。美園小のサクラは多くが被害に遭っている。対策は幼虫の場合、薬で駆除。成虫は踏みつぶすなどして捕殺する。心が痛むが、勇気を出して退治したい」と決意を述べた。審査員長から「サクラは日本の文化そのもの。外来生物の被害に遭っていることを県内に知らせたい」と評価された。担任の沢沼知美教諭と二人三脚で文を練り直し、スライドを作成。文章の区切りや気をつけて読む練習を発表直前まで続けた。最高の結果に「びっくりした」と喜びをこみあげた。



中学生の部・大賞 石原楓花さん(伊勢崎一中1年)

風呂敷でレジ袋減らす

買い物のレジ袋を風呂敷で代用するアイデアを提言した。学校の環境講話をきっかけに、国内で年間約300億枚が使用されるレジ袋について調査。レジ袋1枚につき約20%の石油が消費されていると知り、資源の消費やごみ増加の要因になっていると気付いた。風呂敷の代用として、日本で昔から使われてきた風呂敷に着目。風呂敷の利点として①マイバッグよりもかさばらない②包む物によって形を変えられる③好きな柄や色が選べる④高品質で丈夫⑤お気に入りの柄や色を選べる⑥お気に入りの柄や色を選べる⑦お気に入りの柄や色を選べる⑧お気に入りの柄や色を選べる⑨お気に入りの柄や色を選べる⑩お気に入りの柄や色を選べる⑪お気に入りの柄や色を選べる⑫お気に入りの柄や色を選べる⑬お気に入りの柄や色を選べる⑭お気に入りの柄や色を選べる⑮お気に入りの柄や色を選べる⑯お気に入りの柄や色を選べる⑰お気に入りの柄や色を選べる⑱お気に入りの柄や色を選べる⑲お気に入りの柄や色を選べる⑳お気に入りの柄や色を選べる㉑お気に入りの柄や色を選べる㉒お気に入りの柄や色を選べる㉓お気に入りの柄や色を選べる㉔お気に入りの柄や色を選べる㉕お気に入りの柄や色を選べる㉖お気に入りの柄や色を選べる㉗お気に入りの柄や色を選べる㉘お気に入りの柄や色を選べる㉙お気に入りの柄や色を選べる㉚お気に入りの柄や色を選べる㉛お気に入りの柄や色を選べる㉜お気に入りの柄や色を選べる㉝お気に入りの柄や色を選べる㉞お気に入りの柄や色を選べる㉟お気に入りの柄や色を選べる㊱お気に入りの柄や色を選べる㊲お気に入りの柄や色を選べる㊳お気に入りの柄や色を選べる㊴お気に入りの柄や色を選べる㊵お気に入りの柄や色を選べる㊶お気に入りの柄や色を選べる㊷お気に入りの柄や色を選べる㊸お気に入りの柄や色を選べる㊹お気に入りの柄や色を選べる㊺お気に入りの柄や色を選べる



小学生の部・上毛新聞社賞 落合佑要君(高崎南八幡小5年) 飯塚涼玖君(同5年)

オオムラサキ住む山に

役割分担して発表した一方、要所で声を合わせるなど「気持ちよく伝えるよう表現した」と意気込みを語った。オオムラサキを守る活動について発表した。幼虫は外敵に弱く、近年は里山が荒れ、絶滅が心配されている。児童たちは校内の飼育施設で幼虫を越冬させ、外敵を排除しながら成虫に育てている。4年前はオオムラサキに欠かせない木を植えた。オオムラサキを育てる。昨年、里山に放した成虫から多くの幼虫が生まれたことを知り、2人は「これからもオオムラサキを守り、地域の自然を大切にしていきたい」と力強く語った。



中学生の部・上毛新聞社賞 秋山紗羽さん(高崎倉淵中2年)

ミヤマシジミ復活願う

倉淵中学校を代表して、同校と地域が取り組む「ミヤマシジミ」の保護活動について発表した。「ミヤマシジミは絶滅が懸念されているチョウで、県内では唯一、倉淵地域で生息が確認されている。生徒たちは、生息地の烏川付近でエサとなる植物コマツナギの保護のため下草刈りに取り組んできた。だが、2011年に台風の影響で生息地が浸水し、その後は観察できず、保護活動が続いた結果、現地でチョウの卵が見つかった。ミヤマシジミの卵はまだ分からないが、春に羽化するのが楽しみ」と語った。「美しいチョウの舞う、自然豊かな学校環境に誇りを持ち、しっかりと守っていきたい」と力強く語った。



小学生の部・県教育委員会教育長賞 桜井音々さん(高崎八幡小2年)

家庭でできるエコ探す

着目し、調べてみた。「おうちのエコがし」のタイトルでまとめ、①ヘチマや朝顔、ニガウリでグリーンカーテンを作った②エアコンの温度を28度に設定③使っていない電気を消す④10点を紹介。「他のエコにも挑戦したい。皆さんも身近なエコ活動から始めてみませんかと呼び掛けた。入賞に「うれしい」と笑顔で語った。



中学生の部・県教育委員会教育長賞 平形優心さん(沼田白沢中2年)

地域から尾瀬を美しく

尾瀬サミットへの参加をきっかけに、オセイトン「ボヤセソウ」などの貴重な動植物を守る大切さを再認識した。かつて尾瀬は登山者によって湿原が踏み荒らされ、ごみに悩まされていた事実を訴え「尾瀬の素晴らしさを多くの人に伝えることが、保護につながる」と訴えた。積雪が減ってニホンカモシカの生息地域が変化するなど、地球温暖化は尾瀬にも影響を与えていると指摘。温暖化防止のため、まずは自分の地域から始めようと呼び掛け、地元の小中学生でつくる環境保護グループ「しらさわエコキッズクラブ」で取り組んでいるごみ拾いなどを紹介した。美しい尾瀬を守るため、今後も仲間とエコ活動が続けたい」と笑顔で宣言した。

